

鶴岡市総合計画審議会 企画専門委員会

平成30年4月26日
午前10時～
鶴岡市役所3階委員会室

次 第

1 開 会

2 あいさつ

3 説 明

(1) 第2次鶴岡市総合計画策定の進め方について

4 協 議

(1) これからの10年で、鶴岡市のまちづくりに重視したい着眼点について

(2) その他

5 閉 会

資 料 一 覧

- 1 第2回鶴岡市総合計画審議会企画専門委員会次第
- 2 鶴岡市総合計画審議会企画専門委員会委員名簿
- 3 資料

※事前配布資料

- 1) 市民ワークショップ<つるおか未来カフェ> 資料 1
～ 個人ワークシート記載の意見のまとめ ～

- 2) 鶴岡市総合計画審議会第1回企画専門委員会での意見 資料 2

※本日配布資料

- 3) 第2次鶴岡市総合計画策定の進め方について 資料 3

鶴岡市総合計画審議会 企画専門委員会 委員名簿

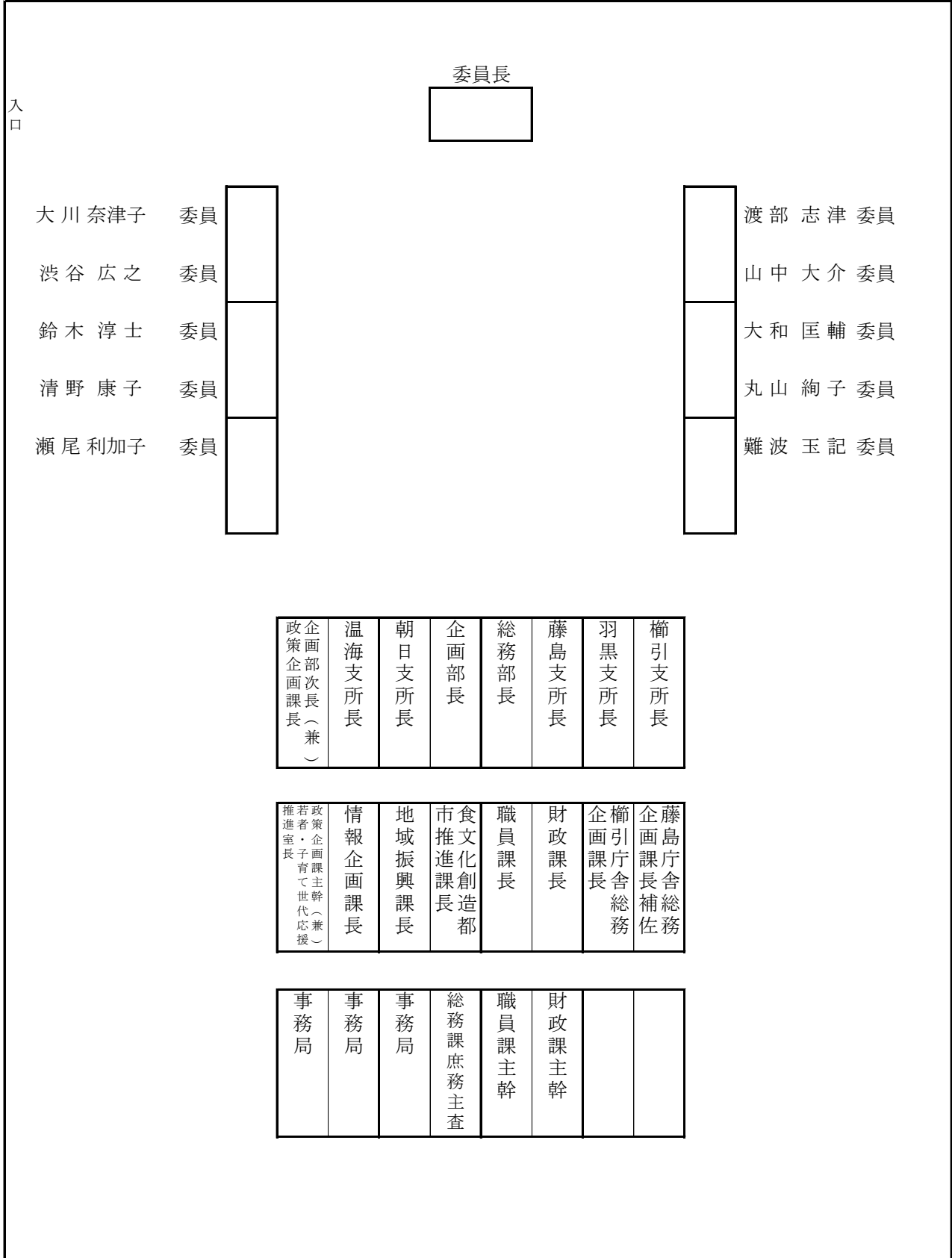
(五十音順、敬称略)

No.	氏 名	役 職 名 等
1	大 川 奈津子	主婦の店鶴岡店 代表取締役社長
2	大 橋 由 明	ヒューマン・メタボローム・テクノロジーズ取締役 研究本部長
3	小 沢 互	産業専門委員会委員長
4	渋谷 広 之	連合鶴岡田川地域協議会 事務局長
5	鈴木 淳 士	市民文教専門委員会委員長
6	清 野 康 子	鶴岡市地域コミュニティ活性化委員会委員
7	瀬 尾 利加子	瀬尾医療連携事務所 代表取締役
8	平 智	山形大学農学部教授
9	高 谷 時 彦	社会基盤専門委員会委員長
10	難 波 玉 記	厚生専門委員会委員長
11	松 本 政 裕	生活協同組合共立社 代表理事・理事長
12	丸 山 絢 子	元鶴岡地域審議会委員
13	大 和 匡 輔	鶴岡織物工業協同組合理事
14	山 中 大 介	ヤマガタデザイン 代表取締役
15	渡 部 志 津	公益社団法人鶴岡青年会議所 監事

任期：平成30年2月1日～平成32年1月31日

第2回鶴岡市総合計画審議会企画専門委員会 座席表

平成30年4月26日(木)
鶴岡市役所 3階 委員会室



市民ワークショップ <つるおか未来カフェ>

～個人ワークシート記載の意見のまとめ～

総合計画策定にあたり、広く市民の意見をお聞きするため、下記のようなテーマで、ワールドカフェ方式により、二回のワークショップを開催しました。

ワールドカフェ方式とは、少人数でテーブルを囲み、「カフェ」にいるような気軽な雰囲気で行う対話の方法で、途中でテーブルを移動しながら、様々な価値観を持つ人達と意見交換ができるため、情報量が増え、新たな気づきやアイデアを生み出すことができる手法とされています。

こうして自由闊達に意見交換を行った後、最後に改めて、参加者一人ひとりから、テーマについて所定の用紙に意見を書いて提出していただきました。第一回目のテーマ「10年後の鶴岡とそのまちづくり」では、70名の方から77個のデータを、そして第二回目のテーマ「今後10年間の鶴岡市で大事にしたい価値」では、78名の方から81個のデータをいただきました。

今回お配りした資料は、この参加者の意見を元データにして、テーマごとにKJ法を用いて図解にまとめたものです。その結果、第一回目のテーマでは9つ、第二回目のテーマでは6つに意見がまとまりました。なお、添付資料は、参加者の意見の関係性・まとめを表す関係図（資料1-2・資料1-4）と、各個人のワークシートから意見を拾い、関係図のタイトルごとにまとめて一覧にしたもの（資料1-3・資料1-5）です。

企画専門委員会の委員の皆様には、こうした市民の意見を、基本構想の将来像、政策の柱づくりの参考にさせていただければ幸いです。

<市民ワークショップ開催概要>

第一回目

テーマ : 10年後の鶴岡とそのまちづくりについて
開催日時 : 平成30年1月27日(土)
ところ : 鶴岡市第三学区コミュニティセンター 大ホール
データの出所 : ワールドカフェ参加者70名
図解の作成 : 鶴岡市企画部政策企画課

第二回目

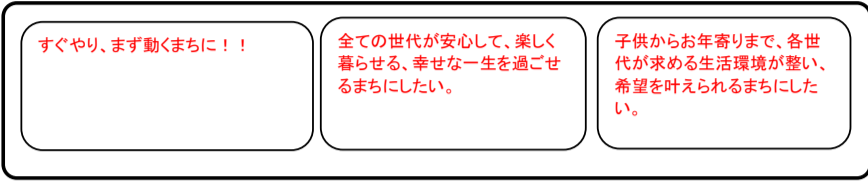
テーマ : 今後10年間の鶴岡市において大事にしたい価値
開催日時 : 平成30年2月17日(土)
ところ : 鶴岡市総合保健福祉センター にこふる 大会議室
データの出所 : ワールドカフェ参加者78名
図解の作成 : 鶴岡市企画部政策企画課

10年後の鶴岡とそのまちづくりについて

～ どんなまちにしたいか ～

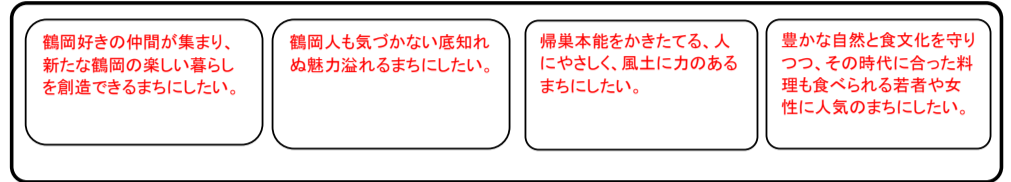
希望溢れるまち

鶴岡を全世代にとって安全安心の生活環境が整い、住民・行政ともにフットワークが軽く、自己実現できて、幸せを実感できるまちにしたい。



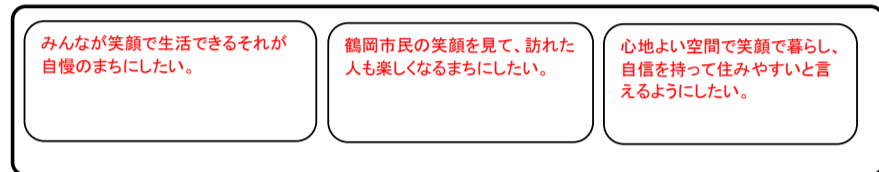
新しい鶴岡の創造

既に人・物・食文化、そして風土の力が多くの人を惹きつけているが、さらに潜在的魅力を含めて全面開花させ、特に若者や女性たちに選ばれる新しい鶴岡を創造したい。



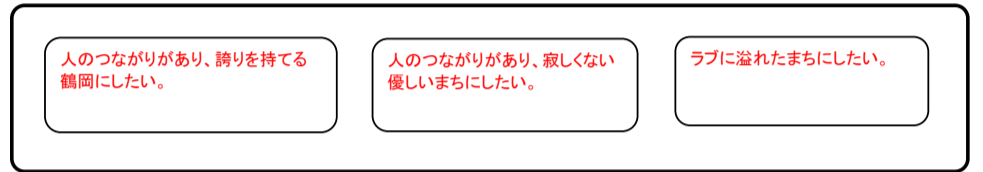
笑顔溢れるまち

市民自身が住み心地よく、笑顔を自慢して暮らし、人が人を魅了するまちにしたい。



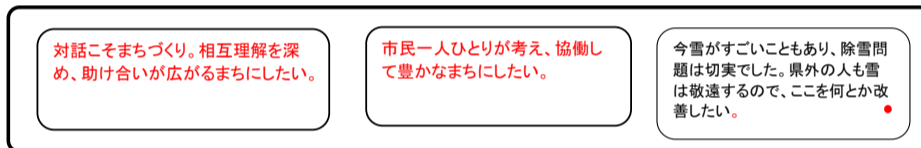
郷土愛溢れるまち

孤独とは無縁の、人のつながりとやさしさに溢れ、郷土愛と誇りを持てる魅力的な鶴岡にしたい。



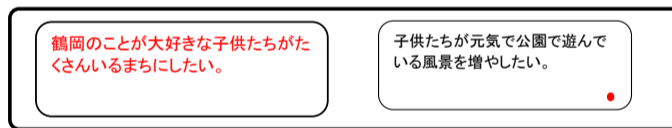
総動のまち

在住・移住問わず、対話を通じて互いを理解し、目標を共有して、市民総参加で、特に除雪は共助で克服し、住み続けられる豊かなまちにしたい。



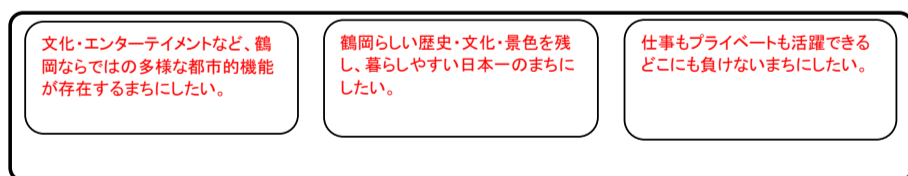
子供溢れるまち

地域の中に子供たちが溢れ、元気な遊び声が響くまちにしたい。



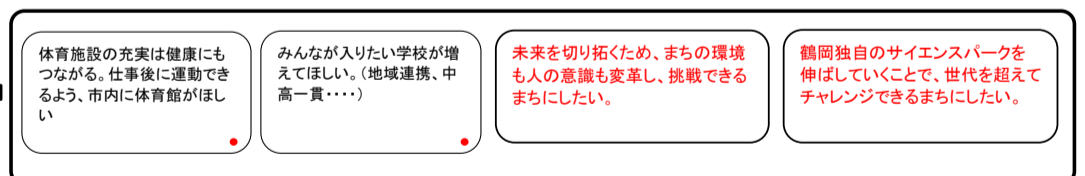
新旧融合した総活躍のまち

まちの歴史と文化の上に、エンターテインメントも含めた独自の多様な都市機能を重ね、市民が仕事でも私生活でも活躍できる日本一暮らしやすいまちにしたい。



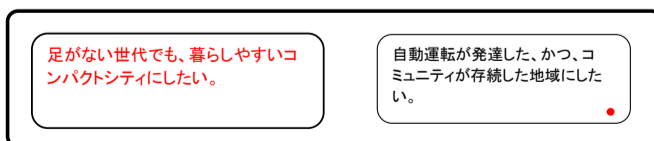
チャレンジできるまち

まちの歴史と文化の上に、エンターテインメントも含めた独自の多様な都市機能を重ね、市民が仕事でも私生活でも活躍できる日本一暮らしやすいまちにしたい。



持続可能なまち

極力コンパクトなまちをつくり、自動運転技術の進化を活かし、上手に交通ネットワークを築き、過疎地にも住み続けられるようにしたい



1) 2018. 1. 27
2) ところ 鶴岡市第三学区コミュニティセンター 大ホール
3) データ出所 ワールド・カフェ参加者70名
4) 作成者 企画部政策企画課職員
(佐藤光治、佐藤繁義、五十嵐一憲、白幡有、丸山大輔、五十嵐亮、佐藤文博、本間孝則、野口有希子)

10年後の鶴岡とそのまちづくりについて

資料1-3

～ どんなまちにしたいか ～

希望溢れるまち

すぐやり、まず動くまちに！！

すぐやる課が大活躍する(助け合いボランティアなど)住みやすい市！にしたいです。

鶴岡版すぐやる課(千葉県松戸市マツモトキヨシ市長創設の課の鶴岡版)

出来ない理由を考えるより、出来るための方法を考える市になってほしい。

全ての世代が安心して、楽しく暮らせる、幸せな一生を過ごせるまちにしたい。

明るく楽しく、若者が誇れるようなまちに。子どもたちがわいわい、お年寄りがニッコリ出来るようなまちにしたい！

いろいろな人ともっと交流できる街。
若者も高齢者ももっと輝ける街。

幸せな人生があるまち。

住民が安心して楽しくらせるあこがれのまちに。
いろいろな人のいろいろな思いを大切にしたまちづくり。

転勤族なのですんでいるか解らないが、すんでいる(いた)事を誇れる町になって欲しい。
地域包括ケアの完成形を!!
「ゆりかごから墓場まで」安心して暮らせるまちに。

子供からお年寄りまで、各世代が求める生活環境が整い、希望を叶えられるまちにしたい。

高齢者から子どもまで多世代がより交流できるような環境のまちづくり。

子育て、介護と仕事が両立できる都市であってほしい。

老若男女、楽しくあそび、学び、生活の出来るまちへ。

新しい鶴岡の創造

鶴岡好きの仲間が集まり、新たな鶴岡の楽しい暮らしを創造できるまちにしたい。

自分ごととしてお互い支え合い創造しながら楽しい鶴岡にしたい！
先人が大切にしてきたモノをつないでいきたい。

伝統について、市民が理解し、その地域に住み続けたいと思える市になればいいな。

歴史文化と産業が程よく融合したまち。
ある程度の人口減、少子高齢化は止むなし。
そこで市民が各自の楽しみを発見し交流していくまち。

鶴岡人も気づかない底知れぬ魅力溢れるまちにしたい。

県外に出た若者たち、県外の方たちが住みたい！と思える町であってほしい。

鶴岡に移住できるまちづくりはできると思います。

帰巢本能をかきたてる、人にやさしく、風土に力のあるまちにしたい。

活気あふれる街にしたい。
子どもたちが帰ってくる。人が集ってくる。

若者が戻ってくる、住みたくなるまちになってほしい。

豊かな自然と食文化を守りつつ、その時代に合った料理も食べられる若者や女性に人気のまちにしたい。

自然豊かで食べ物のおいしいまちであってほしいです。

すばらしい食文化をいつまでもいつまでも続けて世界一の美味しい街に

ランチ日本一の鶴岡市にしたい。

笑顔溢れるまち

みんなが笑顔で生活できるそれが自慢のまちにしたい。

市民が誇りを持てるまちにしたい。
市民がニコニコして生活できるまちにしたい。

楽しんでいる。

どんな人にとっても、住みやすく、楽しく暮らせる場所にしたい。

どんな人にとっても、住みやすく魅力的なまちにしたい。

皆元気で楽しく、充実した生活が送れるまち。

みんながハッピーと思えるように！

良いところ(観光地、食など)をもっとアピールできる、
働きやすい、交通アクセスが良い、
安心して暮らせる、楽しく暮らせるまち にしたい。

若者が集まり、駅前が賑やかで、お年寄りと若い人が一緒に楽しく生活している町を望みます。

鶴岡市民の笑顔を見て、訪れた人も楽しくなるまちにしたい。

住んでいる人、訪れる人が笑顔になるまちにしたい。

若者が鶴岡という町を訪れ、人々が楽しく暮らしていけるような町にしたい。

心地よい空間で笑顔で暮らし、自信を持って住みやすいと言えるようにしたい。

こち良い空間の中で、笑顔で暮らし、来る人にも笑顔をおすそわけ。

自信を持って、住みやすいまちだと誰もが言えるまちにしたい。

郷土愛溢れるまち

人のつながりがあり、誇りを持てる鶴岡にしたい。

子どもから大人、国籍を問わず、たくさんの方が集えるまちにしたい。 住民も観光で来た人も「鶴岡っていいな」と思えるまちにしたい。
誰もがイキイキと過ごせ、交流の行き交う、市民一人ひとりが誇るを持てる市に！
人とのつながりを実感できる心豊かなまちに。
人と人とのつながりを多くしたい。
人のつながりがあり、寂しくない優しいまちにしたい。
いろんな仕事や境遇の方が、さみしくなく、うすくつながって生きられる地域。
誰にも優しい町になればいいと思う。
誰もがさみしくなく暮らせる、精神的にも経済的にも豊かに暮らせるまちにしたい。
ラブに溢れたまちにしたい。
今よりさらに好きでいる。
住んでいる人が「鶴岡愛」にあふれているまち。
超ウンチク語れる人間になりたい。(こういう人でいっぱいになりたい。)
鶴岡イ～ヨネ～と言う、言われる街になるとうれしいです。今も結構全国の人たちに言われています。
鶴岡を好きだという人が、とことん好きになるような鶴岡にしたい！
やっぱり地元っていいなあで終わらない街。

総動のまち
対話こそまちづくり。相互理解を深め、助け合いが広がるまちにしたい。
「対話」の場がますます参考になり「実践する人」が増え、様々な実践の場に参加する人が増えている鶴岡だったらいいなあ～。
多くの市民の対話を通じて様々「定義」してみて、その実現のために自分だったら何ができるか、これまた多くの様々な対話の中で探り、つくり上げられたら。
対話、交流が盛んなまちであればよいと思う。 まちづくりは過程が大事だと感じる。
市民一人ひとりが考え、協働して豊かなまちにしたい。
市民一人ひとりが考え、参加しあっていけるまちにしたい。
ボランティアの人であふれる街にする為、住んでいる人達の生活を豊かにする事を考え、実行していきたい。

子供溢れるまち
鶴岡のことが大好きな子供たちがたくさんいるまちにしたい。
婚姻率が増えて、子どもがたくさんいます。もっと安全な暮らしができます。

大切なふるさとを元気あるまちにしたいです。
子どもたちをみんな鶴岡人にしたい。

新旧融合した総活躍のまち

文化・エンターテイメントなど、鶴岡ならではの多様な都市的機能が存在するまちにしたい。

多方面から満喫したい！（誰でも満喫できる街）
小さくても博物館があれば…や他の方々のお話を聞いた中で色々なおもしろいアイデアが実現されればおもしろくなると思います。

鶴岡にコミュニティFMを開局して、元気で魅力ある街にしたいです。

内陸（山形市等）に負けないまちにしたい。（イベント、映画、お店等で）

鶴岡らしい歴史・文化・景色を残し、暮らしやすい日本一のまちにしたい。

子育て、介護など福祉面、食文化、伝統、観光などの面を総合して住みやすい、憧れの地方都市NO.1にしたいです。

都会にしたいとは思わない。むしろ、鶴岡の美しい景色をずっと残して、その景色を日本中にPRし、日本一きれいで文化のある、暮らしやすい街にしていてもらいたい。

歴史も息づき、若者にも魅力のあるまちにしたい。

仕事もプライベートも活躍できるところにも負けないまちにしたい。

仕事だけではなく、活躍でき、鶴岡の存在を高めていきたい。

自分が住んでいる町→どこにも負けない地域にしていきたい。
継続は宝です。

チャレンジできるまち

未来を切り拓くため、まちの環境も人の意識も変革し、挑戦できるまちにしたい。

おしとやかな鶴岡人から自分を持って発信できる人へ。
成人、青年層が住み続ける事ができる町づくり。
研究、開発ができる企業を！

次世代のためにつくる。

自分がやりたいことに挑戦できるまち。

働きやすい、帰ってきやすい、チャレンジしやすいまち

鶴岡独自のサイエンスパークを伸ばしていくことで、世代を超えてチャレンジできるまちにしたい

サイエンスパークには新しい鶴岡として、もっと広がって欲しい。

生活がもっと便利になり、独自の特徴（歴史、文化、学術など）をもっている町と臨んでいる。

他の町とはっきり区別できる、個性ある町であってほしい。

若者が暮らしやすいまちが、世代や文化の継承になる。
大人が、自分が次の世代がチャレンジできる土壌を作る人になる。
公益とは郷土愛と、底での暮らしがあって始めて成り立つ。
10年後をみんなイメージできるといいですね。

持続可能なまち

足がない世代でも、暮らしやすいコンパクトシティにしたい。

自動運転、電気自動車の先進地になれば良い。(高齢者、中高生も住みやすい街になる。小学生の送迎も。)
「歩かないで暮らせるまちづくり」を目指す。(コンパクトシティと居住する校外の往復手段の創生により、利便性とコストカットを両立。エレベーターみたいなインフラ+アプリ。)
FMは必要！

市の計画の「コンパクトシティ」大変嬉しいです。希望が出て来ました。

今後10年間の鶴岡市において大事にしたい価値

～ まちづくりの指針 ～

CFT (challenge field tsuruoka)

若者の学びの場や仕事を増やし、また、仕事以外でも活躍できる場をつくるのが大事。

鶴岡市の文化がいつまでも残るように、若者の仕事や教育の場をつくるのが大事。

若者が学び、活躍できる場を増やし、文化・観光と合わせて情報発信することが大事。

継承と発展

鶴岡の豊かな自然、ハイレベルな農業、城下町の雰囲気は、これからも守り継ぐべきものであり、さらに、まち全体を活性化させることができる価値である。

高品質の農産物とともに、生産者も大事にしたい。

守り継承されてきた豊かな自然や城下町らしさを大事にして、さらにまちを活性化させたい。

活性化しながらも、都市と自然が共存する城下町鶴岡をつくっていききたい。

自然を大切に、楽しいと感じられる生活を送れるまちづくりを行う。

先人達の知恵と営みで継承し、形成されてきた今のまち全てに価値が内在しており、それをしっかり読み取り、感じ取った上で、新しい価値を創造していくことが大事である。

時代の変化に合わせてながら、人々が交流することで、鶴岡の自然、歴史、文化を継承していきたい。

教育を通じて過去・現在・未来の鶴岡の魅力と価値を知り、思い続けることが大事である。

故郷を思う心、人情、思いやりが地域の文化を育む。

食文化、人との交流の場を通じて感じられる鶴岡人の温かさ、人情を大切にしたい。

故郷の誇りから生まれる絆を大事にしていききたい。

自分たちが育った地域の方言、食文化などを、色んな県や国の人から知ってもらいたい。

鶴岡を世界中に発信することで生まれるつながりを大事にしていききたい。

人々の交流で自然と歴史、文化をつないでいきたい。

自然や人との関わり合いから生まれる地域の食・住・文化を慈しむ心を大切にしたい。

時代の変化に合わせてつ、鶴岡の文化や継承していくことが大事である。

「温故知新」歴史や文化、自然をPRしながら、新しいものを取り入れつつ、大事にしていききたい。

歴史や伝統、食や方言など、数多くある優れた文化をさらに広め、伸ばしながら、大事にしていききたい。

自然との共存は、他にない魅力であり、守るべきと思う気づきが大事である。

地域一人ひとりの関わり合いや、おいしい食べ物、発祥である給食などを大事にしてほしい。また美しい自然や伝統的建物、文化も大事にしてほしい。

自然と歴史・文化を人々の関わり合いでついでいくことを大事にしたい。

時代の違う人と触れ合い、考えや意志つなげていくのが大事。

方言や音楽など、郷土愛につながる文化を生かしつつ、世代間や市内外との交流を大切にしたい。

温故知創

対話の場をつくり、共通の課題を認識し、誰もが自ら解決していこうとする意欲を大切にしていきたい。

現実に向き合ったみんなでの対話を増やすことが大切である。

みんなで対話をして、鶴岡に関心を持って、もっと魅力が増す。

現実に向き合って、対話し続けることを大切にしたい。

人との関わり合いの中で深まった自分の考えを、まちづくりに反映させようとする市民の意欲。

当事者性を持った市民によるまちづくりを大事にしていききたい。

対話、実践、見聞を広めて、自分や地域に活かそうとするチャレンジ精神を大切にしたい。

対話を通じて相手やまちのことを知り、触発されることで、チャレンジ精神が養われていくこと。

このようなつながり、自由であったかいまち。便利さ、まずやってみる、知ってみる、住んでいるところの外に出てみて初めて気づくことがあると思うので、広い視野をみんなが持つことが大切。

主体性の発揮

顔が見える地域

その土地に根づく当たり前の日常を大切に、コミュニケーションが取れ、顔が見える安全安心な地域。

基本となる日常の当たり前と、先人の意見を大事にする。

多くの住民の目が、地域の安全な暮らしをつくる。

地域の人たちが子育てを見守るような環境を大事にしたい。

誰もが安心して生活できることを大切にしたい。

幸福の連鎖

個人を尊重し、健康長寿を促進することで、幸せを感じられる人のつながりを生む連鎖を大切にしたい。

個性の尊重や健康長寿を促進し、世代を超えた交流を大切にしたい。

幸せを感じられるような地域のつながりや、人との縁を大切にしたい。

人のつながり、文化を大事にするため、多様な考えを認め合うことが大事だ。

不満よりも幸せが勝るような地域のつながりを大切にしたい。

人との縁とつながりを大切にしたい。

世代や地域などを越えた多様な考え方を受け入れ、認め合うことが大切である。

今ある人のつながり、伝統や文化を大切に、お互い様の寛容な気持ちを持つ。

1)2018. 2. 17
2)ところ 鶴岡市総合保健福祉センターにこふる 大会議室
3)データ出所 ワールド・カフェ参加者78名
4)作成者 企画部政策企画課職員
(佐藤光治、佐藤繁義、五十嵐一憲、白幡有、丸山大輔、五十嵐亮、佐藤文博、本間孝則、野口有希子)

今後10年間の鶴岡市において大事にしたい価値

資料1-5

～ まちづくりの指針 ～

CFT(challenge field tsuruoka)

鶴岡市の文化がいつまでも残るように、若者の仕事や教育の場をつくるのが大事。

文化を大切にしながら経済を発展させる。

人口減に対応するためにも「産業の活性化」の視点は避けて通れない。(地元で働く場が必要)人財育成の面から教育も大事。

若者が学び、活躍できる場を増やし、文化・観光と合わせて情報発信するのが大事。

たくさんの面で学びの場をつくる。(若者の学習、地域の文化、観光)
外側、内側、両方への情報発信
物理的にも住みやすく

若い子たちが活躍(挑戦、まちづくりに参加)できる場づくり

温故知創

方言や音楽など、郷土愛につながる文化を生かしつつ、世代間や市内外との交流を大切にする。

色々な人との交流
方言、音楽などの文化

地元愛

鶴岡愛！

「方言」は多世代交流、外との交流のツールになると感じたが、若者の方言離れやIターン者にとってのコミュニケーションの壁になることも感じたので、もっと大事にしたいと思う。

自然と歴史・文化を人々の関わり合いでつないでいくことを大事にしたい

鶴岡の自然や文化(食、伝統芸能、方言など)

食文化や伝統で自然を大切にする。
地元の人々、近所の人々との関わり。

鶴岡の文化、自然。もともと鶴岡にあったもの。

自然と文化の調和

庄内の食文化と伝統

自然、景観、歴史文化など過去から受け継がれてきたものを大事にする心

自然との共存は、他にない魅力であり、守るべきと思う気づきが大事である。

・唯一の自然:世界の注目を集めている出羽三山はもちろん、旭地域の千手ブナも、あちこちのトレッキングコースを守らないといけません。自然とのつながりが薄くなってきたこの世界では、鶴岡のような町があるというのはとても大切なことです。

鶴岡の良い所、観光地(強み)を知ることは大切だと思いました。

自然(人の手も、金も入れていくべき)
「温故知新」歴史や文化、自然をPRしながら、新しいものを取り入れつつ、大事にしていきたい。
鶴岡の歴史や文化は大切に新しいことをとり入れること
昔ながらの場所、食、文化など本当に残した方がいいのかを考えながら大切なものを残しつつ、新たなものを取り入れるのも大事だと気づかされました。
「温故知新」。歴史など古いものから新しいものまで、鶴岡のすべてを発信、PRして、大事にしていきたい。
良いものを守り、新しいものを受け入れる鶴岡市に
温故知新 「歴史」と「未来」 「自然」と「人為」の結節点としての鶴岡(を自覚すること)
歴史や伝統、食や方言など、数多くある優れた文化をさらに広め、伸ばしながら、大事にしていきたい。
鶴岡の方たちと親身になれる、歴史・文化を大事にし広めたいと思いました。
鶴岡には鶴岡の良い所がたくさんあるので皆に知ってもらいたい。産業も豊かなのでぜひ伸ばしてってもらいたい。
伝統や文化、庄内弁などが消滅しないように守っていきたい。
文化を大事にしたいと思いました。方言や食など良いものがたくさんあったので大事にしたいです。
この鶴岡にしかない食文化、方言を大事にしていきたい。それをつなげていきたい。日本一の美味しいまち。
教育を通じて過去・現在・未来の鶴岡の魅力と価値を知り、思い続けることが大事である。
鶴岡を思い続けられるような教育
そもそもは価値を知る事を大事にしたい。 今あるものと、新しくつくるもの、ここのものすべてに価値があると思う。
農作物や歴史などの鶴岡の魅力を後世に伝える教育
食文化、人との交流の場を通じて感じられる鶴岡人の温かさ、人情を大切にしたい。
食文化 人との交流
外国人の私にとって鶴岡に必ず守っていかなければならないものは次の通りである： ・鶴岡の素敵な人々：関川のしなおりおばあちゃんと一緒にお茶を飲んだり、国際村のような場所で鶴岡人と交流できたりするのは最高です。鶴岡人の温かい心と笑顔が永遠に続けるようにしないとはいけません。
築き上げてきた文化。鶴岡の人のあったかいところ。
鶴岡を世界中に発信することで生まれるつながりを大事にしていきたい
食文化、自然、今まで大切にしてきたものを今の技術、ネットワークを用いて広めることで、自分達と世界中の人達とで「つながり」を持ちたい。生まれたつながりが価値になると思う。
このような話し合いの場で意見交換できるのが良いなと思ったので続いてほしい。鶴岡市の文化をよりいっそう強くしていきたい。
今日の事を参考にして進歩してもらいたいです。

継承と発展

高品質の農産物とともに、生産者も大事にしたい。

<p>・質がいい産業:有機農業、つやひめ、ブルーベリーなど鶴岡には味がおいしい上に質が高く、信頼を感じられる商品が多いです。未来の世代のこと(健康など)を考えるならそれを大事にしないといけません。</p>
<p>山々や海に囲まれ平野もある鶴岡、農業やその他の生産者を大事に守っていく街であってほしい。</p>
<p>活性化しながらも、都市と自然が共存する城下町鶴岡をつくっていききたい。</p>
<p>全国の色々な地域で都市化が進んでいきそうだが、鶴岡市では都市と自然が共存できるようなまちづくりを目指してほしい。</p>
<p>城下町らしい街、商店街がにぎわう町、城の再建、可能であれば新幹線も！</p>
<p>自然を大切に、楽しいと感じられる生活を送れるまちづくりを行う。</p>
<p>「旧鶴岡市以外の町の良さ」をもっと伝えていく。 自然が多くある事はこれからも自慢していけると思います。</p>
<p>文化や自然等、住んでいる人が楽しいと思えるまちづくりをしていく必要がある。</p>
<p>色々不便はあっても楽しいと感じながら生活できる鶴岡</p>

主体性の発揮

みんなで対話をして、鶴岡に関心を持たれば、もっと魅力が増す。

伝統文化、人とのつながり、コミュニケーション
鶴岡市民であることの良さを一人ひとりが持つこと
市民の声を真剣に聞こう！

人 鶴岡を好きで関心を持ってくれる人が多くなると鶴岡はもっと魅力あるまちになると思う。

鶴岡にはすばらしいモノがたくさんある。子供の頃からその魅力を体験できる伝統が大切。ふるさとのものさしづくり。

現実に向き合って、対話し続けることを大切にしたい。

鶴岡を大事にしたい考えはみんな同じなので、実現できるように努力していく。

市民みんなが取り組んでいるとわかるようなことを！
食と農業
人とのつながり
理想だけでなく現実に向き合った本気の議論

時代に合った勇気あるコミュニケーションの完成！（ダマリンコはダメでは？）

当事者性を持った市民によるまちづくりを大事にしていきたい。

食、文化。鶴岡の市民一人ひとりが考える、知る、今回のような場をつくり続ける事。もっともこの輪を大きくしたい。

鶴岡を良くしたいという思いが反映されるようなまちづくりが展開されることを期待したい。

対話を通じて相手やまちのことを知り、触発されることで、チャレンジ精神が養われていくこと。

こども、若者との対話
知る、育てる、チャレンジする文化

困っているポイントは、世代ごとで似ているので、改善されてくると住みやすく移住しやすくなるのではないだろうか？対話を大事にしていってほしいです。

交流、対話による人財育成

つながり、自由であったかいまち。便利さ、まずやってみる、知ってみる、住んでいるところの外に出てみて初めて気づくことがあると思うので、広い視野をみんなで作ることが大切。

このようなつながり、自由であったかいまち
便利さ、まずやってみる、知ってみる
住んでいる所の外に出てみてはじめて気づくことがあると思うので、広い視野をみんなが持つこと

顔が見える地域

基本となる日常の当たり前と、先人の意見を大事にする。

日常生活のあたりまえのこと大事にしたい。また、先人の意見も大事にしたい。

生活の基本、身体の基本、学ぶ基本、仕事の基本、スポーツの基本、お茶の基本、ダンスの基本、人付き合いの基本…基本をわきまえた上で、世界を目指している。

地域の人たちが子育てを見守るような環境を大事にしたい。

人とのつながり

子育て環境

地域のつながり、近所(隣組)単位の交流の活性化、子育て、子どもを大切にしたい、政策。

誰もが安心して生活できることを大切にしたい。

住みやすさ

住民に優しい住みやすいまち

鶴岡市の中心部の活性化、より交通手段の便利な町づくり。

年齢を重ねると安心して安全な市が一番だと感じるので、皆が住みやすい市にしたいと思う。

幸福の連鎖

個性の尊重や健康長寿を促進し、世代を超えた交流を大切にしたい。

老若男女の個性とつながりを大切にする。

世代を超えた交流
元気で長生き

不満よりも幸せが勝るような地域のつながりを大切にしたい。

地域のつながりや行事
何より幸福度

みんなが幸せを感じる

幸福度
→ブータンみたいに経済が発展していなくても幸福を感じられる都市にしたい。「幸福都市」宣言。

人との縁とつながりを大切にしたい。

人のつながり
人様とのご縁を大事にしたい。
世代や地域などを越えた多様な考え方を受け入れ、認め合うことが大切である。
様々な意見、考え、要望、思いがあるところ
広い心で多様な考え方を受け入れ、認め合う。 人口減少、過疎化は鶴岡だけじゃない。受け入れるべき現実を受け入れて、特色あるまちづくり。 あくまで市民が主役。(まかせっきりにしない)
若者も、年寄りも、健康な人も、体の弱い人も、いろいろなマイノリティも、市街地も、山間部も、すべての人が生き生きしていること。
"多様性"を大事にしながらも市民が全員参加の"場"をつくる！！そのためにつながりを広げる。
一人ひとりを尊重し、対話する文化 若者、女性が主張し、活躍できる雰囲気(今日のワークショップのように)
今ある人のつながり、伝統や文化を大切にし、お互い様の寛容な気持ちを持つ。
伝統、市民のつながり 笑顔、施設、食べ物
おたがいさま、鶴岡・地元愛 住みやすい環境整備は必要(インフラ・交通、子育て制度、ワークショップ) 自然、歴史、食文化

鶴岡市総合計画審議会 第 1 回企画専門委員会（会議概要）

- 日 時 平成 30 年 3 月 29 日（木） 午後 3 時から
- 会 場 鶴岡市役所 6 階 大会議室
- 委員発言の概要

若者の就労

- ・労働力人口の減少が非常に顕著となっている。生産性向上に取り組まなければならないが、よく吟味し検討しなければ、その環境は整わない。IターンやUターンによる人口の流入も対策の一つであり、積極的な取組が必要である。また、高卒採用が非常に困難となっており、高卒者の地元就職対策が必要である。
- ・地域内においても、業種や企業により高卒初任給には格差がある。高卒初任給の引き上げが、若者の地元定着、人口減少対策につながるのではないかと。
- ・高卒者の求人のためにも、企業の魅力発信が必要。若者が飛びつきやすいようなものややっていかなければならない。

移住・定住の促進

- ・本市に移住してきた方々が、移住を決めた理由を把握し、それを突き詰めてアピールしていく必要がある。
- ・Iターンで来たけれども、実態に幻滅した、少し違和感を覚えたという場合もある。Iターンして来るモチベーションと、実態とのマッチング、理想を叶えられるような場所を作っていくことも一つ課題なのではないかと。
- ・移住先ランキングなどで上位にあることをもっとアピールすることで、企業誘致やUターンにつながるのではないかと。
- ・若者のUターンの促進のためには、本市の魅力を子どもだけではなく、親世代にも教育していく必要がある。

交流人口の拡大

- ・本市の魅力を発信し、交流人口の増加に取り組む必要がある。日本版DMOの仕組み作りを行う必要があるが、それにはプロデューサーではなくコンセプターが必要であり、市を中心として外部から人を呼んできて関わってもらうことが必要である。
- ・交流人口の拡大が必要であるが、そのためにも公共交通の充実が重要になってくる。少なくとも酒田市とは手を結んでいく必要がある。

医療対策

- ・もう少し医療の充実に焦点を当てるべきである。移住・定住、若者を増やすと言っても、産科が

足りない。高齢者が増える中、その医療や認知症患者などは地域で支えなければならない。医療関係者等が、議論にどの程度具体的に関わっているのかが見えない。先進自治体では、部署や専任担当を設けて医療対策に取り組んでいるところもある。

エネルギー問題

- ・エネルギー分野の施策評価があまり行われていないように感じる。自然環境が豊かな本市において、どういう形でエネルギー分野に取り組むかも視点の一つではないか。
- ・地域外に出ていくお金を抑えるという意味でもエネルギー問題は大切である。

中心商店街の活性化

・コンパクトで魅力ある都市として持続するためには、地方自治体としての稼ぎの問題もある。儲かることを考えなければならないが、一番の問題、端的な例は中心商店街だと思う。中心商店街を復活させて、そこから税収を得るような、かなり積極的な方策が必要である。

地域の優れた資源・特性

- ・地域の優れた資源を活用していく必要がある。ここで生まれ育った人は、そのありがたさやPRの方策について気づきにくい。ベンチャー企業の従業員の方など、移住者や滞在者の方々が発見したことを発信していただくなど、一緒に取り組んでいくことで、新たな発信や発見ができるのではないか。
- ・除排雪は非常にコストがかかるが、逆の発想で雪を利用していくことはできないものか。
- ・本市の優れた資源や特性に気づいていない市民が多いと思う。資源や特性の活用について、一緒にやっ払いこうという視点を広めていく必要がある。
- ・自然や文化を軸にしたまちづくりが大切である。
- ・農業の衰退が続くことで、民俗芸能が衰退することが懸念される。

食文化創造都市の推進

- ・地域の財産では、やはり食が一番である。食べ物というものの自体に大きな宣伝効果があるし、人を惹きつけるものだが、その魅力を伝えることは難しい。マスコミを通じてどれだけ発信できるかで、地域の知名度が変わってくるし、知名度が上昇すれば、移住して来たいという方も増えるのではないか。
- ・食が優れた資源であると同時に、それを支える第一次産業の担い手不足が心配である。
- ・食を大事にしていくことで、人口減少を補う交流人口の増加につなげることができるのではないか。
- ・食を発信するだけでなく、個々の食、あるいは食文化のレベルが上がっていくようにしなければならない。具体的には地域内での食料自給率の向上や、有機農産物の割合を高めていく取り組みが必要である。
- ・食文化のユネスコ認定が市民に浸透していないと感じる。

市民の一体感の醸成

- ・まち全体が何か一つのことに一緒に取り組めるようなことがあれば、まちの魅力につながる。例えば祭りなどがそれであるが、天神祭なども学校や企業が休みではないという現状がある。市民や企業も参加しようと思える祭りが必要。
- ・世界交流の推進ということで、例えば国連のSDGsの取り組みなど、市民や行政が一体となって何か一つの目標に向かっていければよいのではないか。

時代潮流

- ・適正人口の検討も必要であるが、かつて三世代同居率が高かった地域で、現在は離婚が多くなっているという状況もあるようだ。
- ・一世帯当たりの世帯人員の推移をみると、ターニングポイントがあるように思われる。

計画の策定・推進

- ・若者など市民が考えている課題と行政が考える課題が必ずしも一致しているのだろうか。一般市民目線で考えていく必要があり、日本一など大きな視点も必要だが、身の回りのことを個人レベルでみんながどう考えているのかをもっと捉える必要がある。
- ・個々人の生き方や幸せの指標が多種多様になっている中で、市民一人一人の幸せを図るための支え方はどうあるべきかという視点も必要。
- ・自分たち自身がこの町の未来に対してワクワクしているとか、自分自身が今この場所に住んでいて幸せかというところがまずは最も大事なところだと思う。それがこの場所に人を集めて来る一番大事なポイントなのではないか。
- ・議論する上での分野分けとして、「衣食住」がいいのではないか。「衣」は、「稼ぎ」という意味合いも含まれる。「衣食住」の観点から鶴岡の未来10年を考えていくと、何かいいキャッチフレーズなりコピーなりが段々と出来上がってくるのではないか。

第2次鶴岡市総合計画策定の進め方について

